

## 掛川教会設計競技を終えて

審査委員長 大宇根 弘司

2011. 10. 25

建築の設計競技の審査は極めて困難な仕事である。比較的雑と思われる案を見つけ出すことはそれ程難しくはないが、最後の一点を選び出すことは断腸の思いがする。応募者達が一生懸命寸暇を惜しんで練り上げた提案はその努力の程が否応なく見て取れるのである。1つを選んで他を落とすことは忍びない。今回もいやという程その思いをさせられた。

今回は設計競技であった訳だから最も優れた提案を特定することが一般通念である。しかし、今回の審査を通して、信仰者である教会側の審査員は信仰の場である会堂について非常に具体的なイメージを持っており、その実現を強くかつ具体的に要望されていることが分かった。信者でない応募者や、審査員ですら建築計画上の知見、あるいは想像力では及ばないのである。教会の行事についてもそれに近いことがあったし、牧師館のあり方についてもそうであった。又、駐車台数15台という要項の要望は敷地の能力に対し過大であって、その為に提案の内容を混乱させていると思われた。又、応募要項で求めていた内容が抽象的であったこともその原因であった。そのようなことから私は審査員に、案でなく設計者を選ぶこと、いわゆるプロポーザルにしましょうと提案し了解を得て二次審査をすることとした。勿論二次審査の会場でもその事を説明した。したがって二次審査は提案内容を手掛りにすると同時に次の3つの点に重点をおいた。

- 上記の状況を理解し最良の結果を得る為にはどのような設計プロセスがいいと考えるか。
- 低単価で良質の成果を上げる為にはどのようなことが考えられるか。
- 長寿命、省エネルギーで且つ、美しく快適で使いやすい建築とするための具体的方策はこの場合どの様なものか、実体験を通して提案して欲しい。

審査では全員が発言してくれるよう要請し、議論が深められ、十分な理解が得られるよう配慮したつもりである。審査員全員が私が冒頭で述べたように最終の判断には悩んだものと思われるが、それでも5点評価で投票した結果ははっきりと差がつき結論が出た。特定された高島ゆかり氏の正直な対応と熱意が指示を得たように思う。このあとはこの設計競技という方法で設計者の選定をする方法を採用された教会の当事者、実務を担当された日本建築家協会静岡地域会に改めて敬意を表します。掛川教会のキリスト者達の熱い思いを丁寧に汲み上げてもらっていい教会をつくって欲しいと切望します。